



## 著者プロフィール

中村与謝男（なかむら・よさお）

昭和34年11月27日 京都府宮津市中野に生まれる

本名 古橋正美（ふるはし・まさみ）

高校2年生（昭和51年）頃より作句を始める

昭和57年 故郷にて三野青芒子氏（霜林）の句会に参加する

昭和58年 白数康弘氏（狩）の句会に参加する

昭和60年 「狩」入会

平成2年 「幡」創刊とともに入会

辻田克巳主宰に師事する

平成7年 「幡」5周年記念特別作品受賞

平成15年 滋賀県大津市に居を移す

現在「幡」星辰集作家（平成11年より）

俳人協会会員

〈句集『楽浪』より転載〉〈2005年8月30日時点〉

## 『楽浪』（自選十五句）

中村与謝男

黒葡萄包む「山梨日々」に  
体操の息揃ひたる広島忌  
祇園会の温気の辻となりけり  
秋水の鏡の鈕や竹生島  
冲天の鷹の孤心をおもふべし  
岬山の雪かんむりや真珠とり  
蜂蜜に匙ゆつくりと沈み春  
秋茄子小吏のままで老いゆか  
留守詣あやふく犬を踏みさうに  
死火山の火口へなだれ入る花野  
雪解川全速力で曲がり去る  
あつけなく結納済みし稲の花  
餅丸め了へし形を子に示す  
楽浪の志賀と祝詞や船始  
さびしきは紙風船の銀の口